入善町報
発行所　入善町役場
編集発行　責任者　中田憲政
印刷所　田中印刷所
定価1部5円

わが町の區の分布圖

地図の読み方

この地図は、部落名と区の位置を表わすことに主眼をおいてあります。従って主な道路だけを書き、用水路などは一切はぶきました。部落名と区名の同じいところは、部落名をはぶいてあり、－区二区と書いて別々に部落名の書いてあるものは、例えば、横山一区横山二区のようにお読みください。

区名の近くにつけてある数字は世帯数です。これは、元入善町は昭和三十三年二月の調べを本にしてあそので、多少の増減があるはずです。舟見、野中は、合併前のものをそのまま参考のために書いたのです。

（おわび　八幡一区二区の数字は反対になっております。一区 61
二区 62 です。また、吉原三区の不明瞭なのは 77 です。）

×　　×

合併祝賀式は、雪どけを待って行われる模様です。

入善町住民調　34. 1. 1. 現在

	世帯数	男	女	計
入善	5,285	13,027	14,391	27,418
舟見	484	1,165	1,225	2,390
野中	272	696	674	1,370
舟見地区計	756	1,861	1,899	3,760
合計	6,041	14,888	16,290	31,178

入善町風土記

…54回…

野中の今江と加賀の今江（1）

竹内慎一郎

享保十三年（一三一年前）加賀藩の改作奉行奥村十郎左エ門が各郡巡視の際、野中の今江に至ったとき、随伴した肝煎（キモイリ）百姓共に「加賀の小松の辺にも今江という村がある、同名であるな」と申した所「小松辺の今江の出村でございます」と答えた。「これは又遠方への出村であるな」というと、「その事でございます。微妙院様（三代藩主前田利常当時小松城に隠居）が明暦二年五月（三〇三年前）江戸からお帰りの節ここをお通りになって、舟見野の地形を御覧になり、ここは開墾出来る所と思召され、吟味せよと、仰せ出されました。十村共に詮議せられますと、五百石位はとれるように申しますので、検田、算法に明るい山本清三郎様（後に新川郡奉行、改作奉行となる）岡田庄七様など之を吟味し、七～八百石ばかりの田地が出来る旨申し上げられました。

やがて小松へ御帰城の上御城辺で健やかな若者など多い村を選び、男女ともに三、四十里の遠方へ遣わされる事故ふびんにおぼしめされ、それ故御覧ならせられる旨の御意であるそと伝えさせられました。一同之を承ってかたじけながり、いちどにどっと声をあげて泣き出しましたそうで、それ故、あれから七十二年たった今でも毎月十二日は微妙院様の御忌日（御命日）といって村中精進し、家々にはきれいな茶碗をすえ、お茶湯を上げております」と述べた。

念のため他村できくと、「なる程その通りで御座います。あの村は今以って毎月の十二日には精進してお茶湯を上げていると聞いています。今は所の肝煎までしています。惣百姓はお茶湯までしています」と答えたと、奥村十郎左エ門が語ったという。

（参考文献）
微妙公夜話録、混見摘写（越中史徴）石埼記録（越中史料）可観小説巻廿五、郡史稿加賀史徴、その他

●國旗を揚げましょう

みなさん、元日や成人の日などの祝祭日に国旗を揚げられたでしょうね。

生活改善は、個人の生活や、社会生活の合理化のほかに、国民としての正しい在り方の一面として、国旗を揚ぐべきときに揚げることも、生活改善の大切な面です。

元日に私は、ある町の村落部へ行きました。年頭の寺詣りらしい人々に行きあいましたが、新年らしさが少しもしない。気をつけてみると、それも道理、どの家にも国旗が揚げてないのです。ただの一軒も。

帰って、さて、入善町は、と思って町すじを見わたすと、国旗の揚がっていない家はほとんどなく、雪のない元日を一そう楽しそうに国旗がはためいているではありませんか。私は、ホッとして、いいしれぬ感懐にひたりました。

今後一層気をつけて、国旗を揚げわすれないようにしましょう。

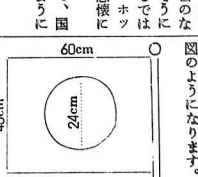
正しい日の丸

日の丸の国旗の制定されたのは明治三年です（明治三年九月二十七日公布の太政官布告。それによると国旗には寸法が規定してなく、たて、よこの割合だけを示しています。

▼たて　二、横　三の割

▼円はたての3/5

これを具体的にいえば、たて四〇センチの場合は、図のようになります。



ところが、店で売っている日の丸の国旗は、大部分寸法が規定にあっていないようです。できるだけ正しい国旗を用いるよう努めましょう。

ともしび

釋　善修

時期当来せば、積雪も自然に消え、草木も新芽を出す。何事も時節を待つことが大切だ。あせってはいけない。やがて、すべてがほほえんで迎えてくれる時が来るのだ。心のまなこを開けば、いつでも、どこでも、万物は自分を生かして迎えてくれるのだと自ざめるのが信仰だ。

「母子衛生」の重視

――入善地区の実態――

妊婦、お産、赤ちゃんなどに対する取扱い、手当、注意を誤って、不幸な結果を招いたという話がザラにあります。

例えば、妊婦が妊娠の衛生を無視して過重な労働をしたり、栄養を採らなかったりしたため、産前、産後のわずらいや、難産であったり、また、育つ子どもも、おだぶつにしたりして、未熟児の死亡だけでも県下で年間千人もいるとか新聞に出ていたように思います。

とりわけこの地方は、お産や赤ちゃんのことに関しては、極端にいえば、〝とりあげばあさん〟に委せきりといった昔の姿そのままのようです。

そこで、この町では「入善町母子衛生推進委員会」を設けて、妊婦、産婦、乳児の健康増進をはかり、いろいろの事業を進めています。また、これを公民館活動にも取り入れ、婦人会も呼応して、活躍し、大きな効果をあげております。

いま建築中の母子健康センターは、陽春早々開設される予定ですが、これも母子衛生の事業の一つです。このセンターは、産院と同じ仕事をし、産婦が入院してお産ができるような設備をしてあるほか、乳幼児保健指導室、妊産婦保健指導室があって、母子衛生の保健指導を行うことになっています。

ことに入善地区では「母子衛生」の県の指定地区となっており、活潑な事業が進められ、県下の模範となっております。

入善地区の母子衛生の推進母体は、同地区の婦人会であります。

国が「家族計画」を奨め受胎調節指導に乗りだしたとき、町民の中には意味をとりちがえて人工妊娠中絶を奨めているかのように考え、母体に及ぼす悪影響のあることも考えず、人工中絶が平気で行われることになりました。そのほか妊娠届がおくれがちとなり、母体保護がおろそかになったため、流産、死産、早産が多くなり、乳児の死亡率が上昇するなど、なげかわしい状態となりました。

これではいけない、何とかしなければ、と同地区婦人会が相談の結果「母子衛生班（役員六十名）」を組織して、昭和三十年からこのしごとに乗りだしたというわけです。

◎主な事業

1. 集団妊婦検診　月一回
2. 集団乳児検診　月一回
3. 個人相談及び指導
   保健相談室の開設
   毎週月水金の午前中
4. 個別指導――家庭訪問
5. 推進委員会　年四回
6. 指導者講習会　月一回
7. 受胎調節指導
   幻灯で部落町内別に
8. 婦人衛生、家庭看護等の指導

（上の写真は入善地区婦人会で行った乳児の集団検診）

津市大会に臨んで

沢谷くさ

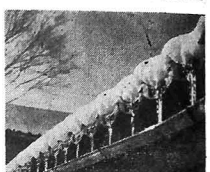
昨年十一月十三、十四日の二日間、三重県津市において「新生活運動東海北陸ブロック研究会」が開かれました。その際私は、富山県代表として出席し、他県の方々とそれぞれの立場における活動面の実態について語りあいました。

私の発表は〝母子衛生の実態〟でしたが、入善地区の母子衛生のありのままを発表しますと、だれも驚異の眼をみはり、いろんなことを私に質問しました。

私たちのこのしごとがもし成功しているとしますれば、それは、役場当局や公民館がよく理解し、強力して下さり、婦人会と三者一体になってこの事業を推進し得たことによるものと思います。

文化活動、生活改善運動など、はなばなしく叫ばれてはいますが、集っている人たちの正直話を聞くと、実際は、まだまだというところではないでしょうか。たとえば、公民館を持たない所が二、学校の校長が公民館主事を兼務するとか、農協の書記が社会教育面を担当しているとか、有線放送施設がないなど、わが入善町のそれと比較して、相当程度が低いようで、肩身の広い思いをしました。

私たち入善町民は、「文化入善」であることをほこりとするとともに、日常の生活のうちに、一人一人が指導的な立場に立って新生活を推進し、よりよき入善町を築くべきだと痛切に感じました。



三日（火）　節分
四日（水）　入善町有志懇談会
五日（木）　立春
六日（月）　町議会
中旬より　所得税確定申告（三月十五日まで）
　　各地区順廻映画による農業講座
三日（土）　固定資産税納期限
　　贈与税申告納期限

営農あの手この手

一月二十日町役場会議室で〝入善町農業技術者協議会〟を開き、昭和三十四年度の事業計画を立てた。

この会は、町産業課や農業改良普及事務所など町の営農指導に当る各部門が一丸となって一元的営農指導に当ることを目的としていて、県の営農指導につき研究し、調査し、実験して入善町の気候・土質・水温などに適合したものに消化、適応させる役目を果している。

まず、昨年の米作についての反省として

(1) 稲の倒伏は窒素過多によるので、その最高限度をきめる。

(2) 調査の結果当地方は水温が低いため、極端な早植はさける。

(3) 有効分けつ（蘖）の最終期は試験の結果、早・中生とも六月二十日であることがわかった。追肥はそれを基準にする。

基肥主義をとり、倒伏のおそれを招く追肥は避けたい。

など数項目にわたり協議し次の基本線を出した。

▲銘種の主な事項

1. 水稲適区優良品種
   ◎農林一号　新六号　中新二〇三号　トワダ
   しろがね　しんまさり
   平和糯　山陰一七号

営農指導指針

○藤坂五号　越路早生
豊年早生　北陸一二号
万代早生　やちこがね
越南一五号

2. 倒さぬ稲作り
肥料　昨年の肥料分量は
N　二一・五キロ（五・七二五貫）
P　一一・〇キロ（二・九三四貫）
K　一四・五キロ（三・八四四貫）

であったが、窒素だけは多過ぎたため倒伏したので今年の窒素量は次のように改める。

N　一六・九キロ（四・五貫）

自給肥料を含めた最高限度である

高限度である

電熱＝五月七日（三十～三十五日苗）

ビニール（陸）＝五月十日（三十～三十五日苗）

温床紙＝五月十五日（三十五日苗）

3. 田植時期の早い限界

4. 追肥の時期
   早中生共六月五日まで

5. 麦類の奨励品種
   大麦　北陸二号　ユキワリムギ
   小麦　ナンブコムギ　農林六八号

今年の初町議会

一月一日から町村合併した新町の発足に伴い、舟見支所の設置条例及び議員定数の改正などを議するため一月七日に第十三回入善町議会臨時会が開設された。

議決事項

○入善町舟見支所の設置
○議員定数を二十八人に
○町議員選挙の選挙区及び各選挙区において選挙すべき議員の数を定める条例（舟見選挙区で四人の議員の選挙）
○一月一日から入善町立野中小学校を設置し、仮校舎を野中、舟見、中沢におく。

舟見地区町議員きまる

町村合併に伴い町議会議員定数の改正により舟見地区四名の町議会議員の選挙は一月三十日に行われた。即日開票の結果次の諸氏が当選した。

当選　西尾三郎（56）（野中）　四九七票
当選　小森幸男（46）（舟見）　四五八票
当選　野島正一（34）（舟見）　四一九票
当選　三賀しさい（45）（舟見）　二九八票
次点　若林豊吉（42）（舟見）　二〇六票

メートル法漫談

「元日からメートル法になったが、『五十里』の村はどうなるの？」と、こまかしく中学生の坊主らしい、マス祭りをした町がある）――もう十年もたっての質問。私「そこまでは改められまいネ、黒部市たら、メートル法も板につ の『十二貫野』だってそくことになるだろう。

うだし、地名はどうにもなるまい。」家内「一寸待ってのち一寸」の字くらいは使わないようにしなくてはネエ」――（当用漢字ではすでにちょっとを一寸とは書かない）

以上は、元日の私の家のこたつでの一幕。

メートル法への改正で、ココ当分は実生活の上に相当の混乱がおこることが想像される。それも、メート法以外の計器が姿を消して、メートル法のサシ、マス、ハカリだけになったら（一升マスを集めて燒さ

ところがメートル法へのうだし、地名はどうにもなるまい。」家内「一寸待ってのち一寸」の字くらいは使わないようにしなくてはネエ」――（当用漢字ではすでにちょっとを一寸とは書かない）

以上は、元日の私の家のこ

改正で、年が経てばたつほど困ってくる問題がある。

「……メイ土の旅の一里（一九四キロ波の上」の随筆を寄せて、こうした日本語を惜しまれた気持ちはよく新たに舟見、野中両地区の該当者も加わったので最初の予定を変更して午前十時に式をあげ、余興に演劇、器楽なども加え、出席者も四九七名の該当者のうち三三三名出席、来賓・青年団、婦人会の幹部などを合せ、総計五百数十名という予想外の盛況さでもった

式の模様は前号でご案内したとおりであるが、当日の受賞者は次のとおり。

（上の写真は余興の劇）

優良青年受賞者氏名

（入）室和夫　竹内初江
（上）柳平孝　目沢雅子
（青）松沢孝衛　広島信子
（飯）屋木敏郎　井田節子
（小）井林耕栄　福沢桂子
（新）米山六博　西島笑子
（舟）梨木忠男　笹川笑子
（野）金山正芳　金森富子
（們）大田稔　福沢美智子
（横）島田昭与　亀田美津

スキー講習会へどうぞ

だれでも楽しめるスキー雪国の生活に不可缺なスキーの講習会が、県教委主催で県下各地で催される。

当地方の開催地及び期日は次のとおり。

開木山スキー場（魚津）
二月十五日（日）
三峯スキー場（朝日）
二月二十二日（日）
宇奈月スキー場
二月二十八日（土）～三月一・二日（日・月）

※宇奈月会場で準指導員検定を受験する方は合宿の上三日間出席のこと。

各会場とも十時に開講式四時終了予定。受講者は十時までに会場に集合のこと

優良成年の表彰

第十一回入善町成人式は成人の日、一月十五日に中央公民館で行われた。一月一日町村合併をしたことに伴い、九里四里うまいと書いて、九里四里うまいと読ませていた燒いも屋は、商売上一番先に困ったこだろう。あの日本情緒ゆたかな看板の運命も、命タンセキである。

こうして、味のある、ユーモラスな日本語が、近い将来に消えてしもうかと思うと、日本人ならだれも一一惜歎を加えねばわからなくなる時代が来る。

角あんどんに、十三里と、九里四里うまいと、商売上一番先に困ったこだろう。あの日本情緒ゆたかな看板の運命も、命タンセキである。

こうして、味のある、ユーモラスな日本語が、近い将来に消えてしもうかと思うと、日本人ならだれも一一惜歎を加えねばわからなくなる時代が来る。

K

入善図書館新着図書

書名	著者名
現代知性全集	永原慶二
阿部知二集	大宅壮一
天野貞祐集	渡辺恒雄
天宅壮一集	佐藤一
河上徹太郎集	目沢雅子
高橋義孝集	広島信子
都留重人集	井田節子
奥野信太郎集	井林耕栄
古谷綱武集	福沢桂子
とんと昔があったけど	田原虎次
第二集	水沢謙一
現代マルクス主義－反省と展望－	古在由重
光また還える－アジア独立秘話－	田中正明
一を十にかえる愛の活かしかた	生き方研究会
源頼朝	永原慶二
女傑とその週辺	大宅壮一
アジアに於ける共産植民主義	米国大使館
被告	佐藤一
派閥	渡辺恒雄
生きている植物の四季	北川政夫
薬用植物事典	村越三千男
科学技術白書	科学技術庁
農機具	田原虎次
麦作	竹上静夫
林業	山本光
経営の自己診断	佐野定一
果樹	永沢勝雄
金魚の飼い方ふやし方	新井邦夫
鶏の飼い方	中村享嬉